



仁愛大学

人間学部 心理学科

大森慈子 (おおもり やすこ)

所在地：福井県越前市大手町 3-1-1

<http://www.jindai.ac.jp/>

Profile—おおもり やすこ

仁愛大学人間学部心理学科教授・学科長。専門は生理心理学、社会心理学。著書は『心理学から考えるヒューマンファクターズ』（分担執筆, 有斐閣）, 『福祉のための心理学』（分担執筆, 保育出版社）など。



はじめに

仁愛大学は、2001年に「仁愛兼済」を建学の精神として、福井県の武生市（現在の越前市）に開学しました。武生市は、2005年に今立郡今立町と合併して越前市となった、人口約83,000人の市です。大学の最寄り駅はJR武生で、京都から特急で1時間強ほどのところにあります。学生は、武生駅からシャトルバスを利用し、また半数以上は自家用車で、四季を豊かに感じるキャンパスに通学しています。

心理学科は、開学当初より設置され、学生、教員数とも本学に今ある4学科の中で最も大所帯です。北陸地方において、心理学を基礎から応用まで学べる唯一の学科で、学生の出身地は、福井県はもとより、石川県、富山県といった北陸3県が大部分を占めています。

学びの特色

心理学科の学びは、幅広い心理学の領域を豊富なカリキュラムの

設定でカバーされています。心理学の学習に必要な基礎的な講義や演習、また、心理学の各専門領域における入門や基本的な授業を、できるだけ多く満遍なく履修することで、心理学の基本をしっかり固めます。3～4年生に開講されている応用科目では、学生が自主的に決定した一つの系について重点的に学びます。「臨床系」でさまざまな臨床場面における心理的援助の実践をめざし、「行動・支援系」では人の行動と発達を捉えて快適な生活を支援する方法を考え、「産業・社会系」では実社会で活かせる人間や行動の原理を究明し応用する技法を身につけます。

これら心理学の領域全体の授業を、16名の専任教員が担当しています。心理学科には、1学年100名前後の学生に対し、助手2名を加えた計18名の専任教員がおり、教員1名あたりの担当学生数は1学年5～6名で、きめ細やかな教育指導が行われています。専任の助手は、本学心理学科および大学院出身者の臨床心理士で、学生にとっては指導者であり、親しみやすい相談相手となっています。

さらに、演習や実習はすべて少人数制のクラス編成で、院生のティーチングア

シスタントを各クラスに配置し、授業中に適宜学生の相談や質問に対応できる体制を作っており、個別指導やレポートの添削を丁寧に行っています。

また、授業での疑問点を解決したり、レポートの作成などに取り組みやすくしたりするため、3～4年生を中心としたチューデント・アシスタントが常駐するヘルプデスクを、自主学習の場として週2コマ設置しています。自習や授業内容の質問、大学生活やゼミの相談など、学習に対する動機づけを高める一助となっています。

学びの環境

心理学科は設備が充実しており、それらを用いた本格的な心理学実験が実施されています。実験実習や卒業研究などで学生が行う心理学実験は、学会発表や学術論文への投稿が可能なレベルの高いものも多くあります。実験施設として、ヒトを対象とした心理・生理学的実験を行う二つの実験室と三つの防音シールドルームを有し、脳波や心拍、眼球運動といった生理反応を記録する脳波計やポリグラフを用いて、虚偽検出などの実験実習をしています。約10帖の広さがある防音シールドルームでは、睡眠実験も実施しています。また、動物飼育室には、動物の行動の基礎を調べるために用いられる実験用のラットがいます。情動的特性の研究目的のために筑波大学で作られてきた他で飼育



写真1 グラウンドから見下ろしたキャンパスと周辺の風景

されていない「Tsukuba情動系ラット」もあり、感情と行動の関係などを調べています。動物を対象とした行動測定や生理・生化学的実験を行う実験室は二つ保有しています。

カウンセリング技術については、多くの実習を通してスキルの向上をめざすために使用される、三つの臨床心理実習室があります。箱庭をはじめとする道具も充実し、学生が学びたいときに様々な設備や器具に触れることができる環境を整えています。

学生の活動

心理学の学生は、心理学の専門性を活かし、不登校児童のいる家庭、学校または適応指導教室、児童養護施設へ出向いて子どもたちと触れ合い、また、特別支援学校に通う障がい児の学童保育ボランティアなどの活動へ積極的に参加し、地域との関わりから多くを学んでいます。

例えば、福井県が事業として募集・派遣している「心のパートナー」や「メンタルフレンド」があります。また、特別支援学校における学童保育の企画・運営にも心理学の学生が携わってきました。さらに、児童養護施設の入所児に対し、心理学科生が個別学習支援を実施しています。児童福祉施設入所児の進学率は一般家庭に比べると低く、学力格差も生じていますが、この対応としての大学生による個別学習支援プログ



写真2 防音シールドルームにおける実験実習の様子

ラムの実践には、大きな効果が期待されます。加えて、このプログラムがきっかけとなり、社会適応に悩む少年少女と関わるボランティアを中心的な活動内容とするBBS (Big Brothers and Sisters Movement) が、仁愛大学にクラブサークルとして今年度設立されるに至りました。福井県内、特に越前市のある南越地区において切望されていた仁愛大学BBSの地域における今後の活躍も注目されています。

取得できる資格

意欲的な学習を促すための目標設定として、心理学関連の2検定について、本学を団体受検会場にして、受検料の補助、対策講座の実施を中心とした受検支援を行っています。日本心理学諸学会連合が実施する「心理学検定」は、昨年度2～4年生の75名が受検しました。大阪商工会議所が企画している「メンタルヘルスマネジメント検定 (セルフマネジメントコース)」では、就職活動を見据えた多くの2～3年生が成果を得ました。

心理学科卒業時に申請することで得られる資格としては、認定心理士や心理相談員があります。社会福祉主事、児童福祉司などの任用資格も取得できます。

さらに、大学を卒業して大学院修士課程を修了すれば、臨床心理士の受験資格が得られます。仁愛大学の大学院は、北陸3県に2大

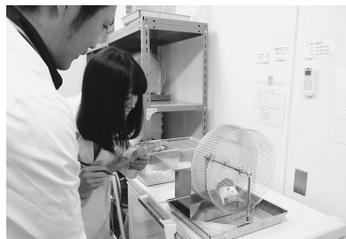


写真3 ラットを用いた動物実験の実習

学のみ臨床心理士第1種指定大学院で、院生の約半数を占める心理学科の内部進学者も、心理臨床家をめざしてがんばっています。

卒業後の進路

心理学科は、第1期生から今年3月の卒業生まで、95パーセント以上の高い就職内定率を維持しています。心理学というとカウンセラーなど専門的な職種につながるイメージを持たれる傾向にありますが、学生の就職先は一般企業が最も多く、次いで福祉施設、公務員などです。心理学科の卒業生は、客観的にデータを分析する技術と、今何が必要なかを見定める心理的な感性を活かすことで、あらゆる職種において活躍する場が開けています。

その他、大学院や各種学校へ進学し、様々な資格取得や研究者の道をめざす学生も約1割います。卒業生の中には、本学も含め、大学の教員になった人もいます。

おわりに

それぞれの想いを胸にした仁愛大学心理学科の入学生は、様々な活動や学びを通して多くの得難い経験と社会人・職業人として求められる力を身につけます。大学4年間の学びの集大成は卒業研究といえますが、その成果を学科の一大行事である丸一日かけての卒業研究発表会で披露し、学生たちは卒業の日を迎えます。豊かな将来性をもつ卒業生を送り出していることが、仁愛大学心理学科の誇りであり、礎であると感じています。

なお、仁愛大学公式ホームページにリンクされた心理学科オリジナルホームページで、学科の出来事や学生の日常を紹介しています。本学科の様子や学生たちの表情を、ぜひご覧ください。